

# 国語科学習活動案

日 時 2005年9月8日 (3校時)  
児 童 3年1組 計22名  
授業者 藪 田 晃 一

1. 学習材名 「わすれられないおくりもの」

2. これまでの学習活動

《読むこと》

朝の読書の中での微音読、授業中の音読の取り組みに加え、保護者の協力を得て1日に1回音読をする機会を設けることにより、ある程度スムーズに音読できるようになってきたことに加え、音読に他者を意識する様子が見えるようになってきた。1学期終盤の単元「めだか」「森のスケーターやまね」では、その活動を繰り返すことにより半分程度の子が、文言1字1字まで正確にはいえませんが、大まかな中身を暗唱することができるようになっていた。音読の量を確保することにより、内容を把握する力が深まってきている。

しかし、間の取り方、強弱のつけ方、読む速さ等、これからさらに高めていかなければならない音読の技術はまだ多い。よって、今後は聞かせる相手を広げ、担任以外の先生や自分の親以外の保護者等に聞かせる活動を多くすることで、さらに相手を意識した音読ができるように取り組んでいく。手始めに、詩の単元で他の先生相手に読み聞かせをした。まだ、慣れないところも多く十分とは言えないが、これから何回か繰り返すことで高めていきたい。また、聞かせた相手からの感想・評価を聞くことで意欲を高め、今後の活動につなげていきたい。

《言語事項》

漢字の学習では国語辞典などを利用し、その漢字を使う言葉・文章を考えさせ漢字練習帳に書かせることで読むこと、書くことのほかに語彙を増やす指導をしている。その結果、部首などの文字の構成にも興味を示し、漢字に関心を持つ子も増えてきた。また、継続的な漢字テストを行うことで漢字の定着を図っている。

3. 本学習で培う基礎基本

豊かな表現・読解力を身につけるために

◎聞き手を意識することで読みを高めていく (中学年ブロック重点目標)

相手を意識して取り組ませることで、自然と音読の力が身についていく。それに伴い、内容を深く読み取っていくことができる。

↓ その手段として

ペープサートを作る学習を通して、物語を読み進めていく。

- ・ ペープサートを発表する相手 (今回は保護者) を意識させる。
- ・ 絵や会話等を考えることを通して物語を読み深めていく。

グループ活動で相互に読みを高めていく

- ・ 物語を読み進めていく中で、「こう表現した方がいいのではないか。」「こういう言葉を入れたほうがいいのか。」ということを考え、グループで意見を出し合うことで、内容理解を深めていく。

もちろんその学習を進めていくためには、本文をしっかりと読めることが大前提である。授業の中で音読をする時間を確保することで、今回の学習のねらいに近づけていきたい。

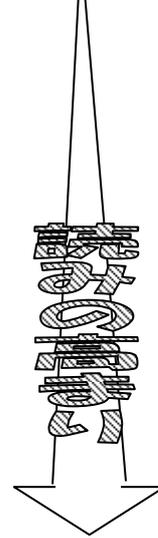
(個人読み、一斉読み、グループ読み、交互読み、後読み 等)

また、漢字の定着のために毎時間、漢字小テストを行っている。この取り組みによって、国語が始まる前に漢字の確認をしたりする子が増え、漢字に対しての意識が高まってきた。本学習だけでなく、これからも継続的に取り組むことで漢字の定着を図っていきたい。

4. 学習計画 14時間 (本時 8 / 14)

時	学 習 活 動
1	*学習活動の見通しを持つ。 *新出漢字の学習をする。
2	*全体を音読。場面わけ
3	*ペープサートについて *班での割り当ての決定
4	*ペープサート作り
5	*表現方法の話し合い
7	*練習
8	*中間発表 (班で発表するいくつかの場面の中から 1つ選んで発表)
9	
10	*修正・練習・発表準備
13	
14	*保護者への発表

聞き手を意識



5. 本時について (8 / 14)

(1) 本時の目標

○ペープサートを通して、聞き手を意識した音読をする。

(2) 本時の展開

学 習 活 動
○漢字の取り組み 漢字の定着のために毎時間行う小テスト
○音読 ・個人読み (全文速読) ・発表のために前もって決めておいた場面を班員で一斉読み
○ペープサート練習 ・班で決めておいた場面を一つ発表 ・発表前の練習・修正
○発表 ・班でのペープサート発表後、どこに気をつけていたかを発表
○先生からの意見を聞く
○班での話し合い ・発表の中の問題点等を班で話し合い、次回につなげる。